

# 日本における 闘牛の存続に関する研究



環境学研究科 地理学D3 石川菜央 1

## 研究の目的

1. 闘牛の存続の仕組みを、担い手の活動に着目して解明する。
2. 伝統行事の存続の仕組みに対し新たな知見を加える。

闘牛, 担い手, 存続,  
観光化, 社会関係, 後継者

2

## 問題意識

多くの伝統行事

旧来の意義, 基盤を失い, 衰退 or 消滅

闘牛... 開始当事の基盤なくなる

ウシを飼う → 担い手の時間的拘束

経済的負担 → 担い手個人



## 闘牛 > 他の伝統行事

- ・担い手の強い自主性
- ・多くの困難を解決しながら存続

闘牛存続の仕組みを提示



従来研究で指摘の仕組みに + α

4

## 闘牛... 他人の牛同士を闘わせる

人と人との間に成り立つ



牛主



牛主



担い手同士の  
関係に着目



## 担い手の定義

狭義: 牛主 (闘牛の持ち主で飼育者)  
勢子 (闘牛をけしかける)

主

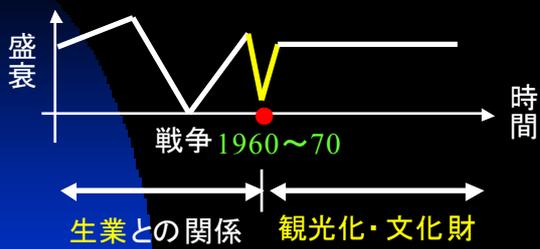
- ・地域における行事の成り立ち方
- ・次世代に担い手への継承を重視



広義: 牛主・勢子の家族  
近隣居住者 を含む

6

### 課題1: 観光化と担い手の活動



→担い手の活動や自主性に着目した研究 7

### 課題2: 担い手同士の関係

動物を通して人が闘っている

ギアーツ

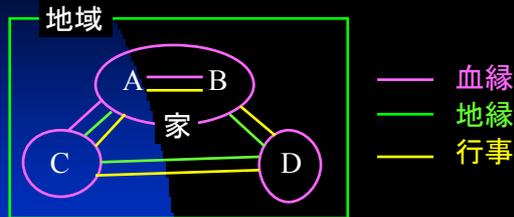
→鶏の持ち主 + 応援者の関係に着目  
既存の社会関係を強化する役割あり

曾我(1994), 小川(1975)

闘鶏, 闘牛を通して人々が新たに知り合う

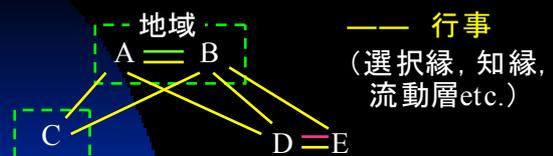
8

伝統行事...1つの地域内で既存の社会関係を強化する(主に村落)



9

伝統行事...新たな関係を作る(主に都市)



・従来の関係(血縁, 地縁)に捉われない  
・行事を介した関係が地域を越えて広がる

10

### 課題3: 後継者の育成

#### ①子供や若者

- ・行事の意義
- ・受け継がれる具体的な過程

#### ②女性の役割

- ・表舞台に立つ女性への注目
- ・裏方を担う役割については?



11

### 課題4: 娯楽—競技としての検討

信仰との関係で存続が説明される。



1980~90: 娯楽の側面から行事を検討する必要性

- ・娯楽の意義は? 地域に何をもらたらず?
- ・娯楽をめぐる利害, 意見の対立

12

## 研究対象：日本の闘牛

- 牛同士を闘わせ、逃げた方を負けとする
- 現在、6地域で開催
- 400～800年の歴史



13

## 事例1 愛媛県宇和島地方

- ・観光化に対する担い手組織の対応
- ・組織における担い手の関係



14

## 観光化の影響と運営組織 【宇和島市】

1. 市営・・・観光資源としての知名度
2. 都市化→牛の不足
3. 大規模な経営で広範囲の牛主を獲得



屋内闘牛場

15

## 【南宇和郡の闘牛】

1. 民営・・・知名度は低い
2. 多くの牛を保持
3. 地元密着した闘牛に定評あり



← 野外闘牛場

16

## 2つの闘牛大会の関係

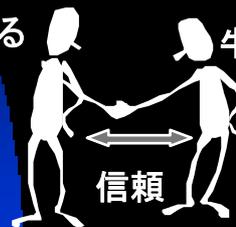
- ・発祥の地を巡る論争
  - ・ライバル意識が組織の連帯感を高める
  - ・2001年から牛の交換 開始
- ・両者の相互補完的な関係

17

## 勢子の獲得

- ・命がけの役割
- ・「勢子の良し悪しで勝敗が分かれる」

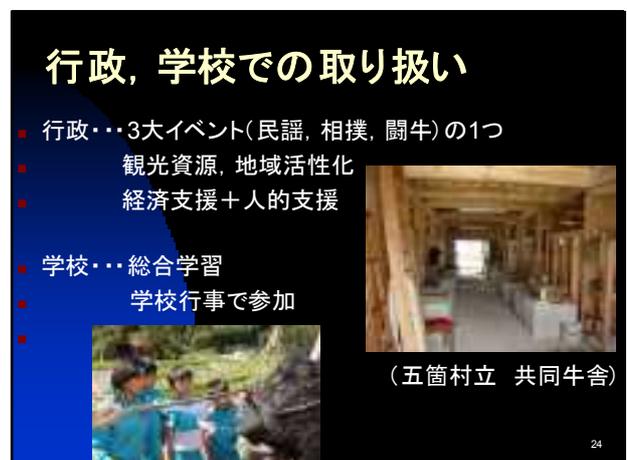
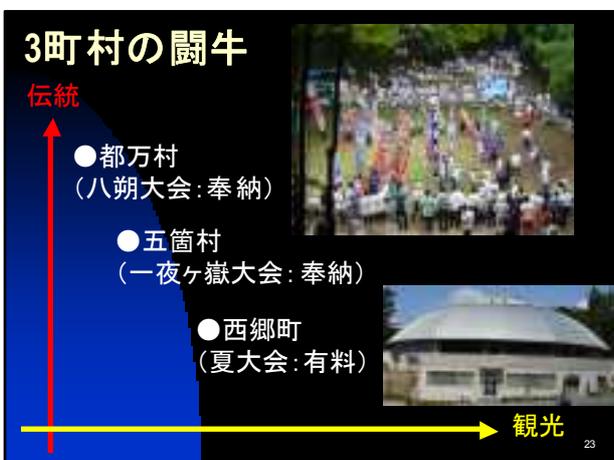
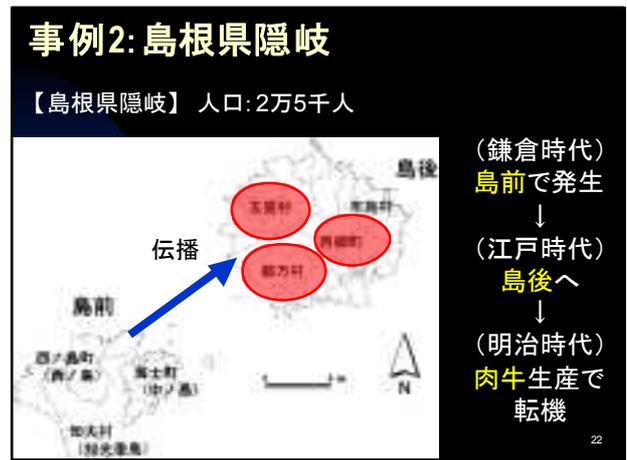
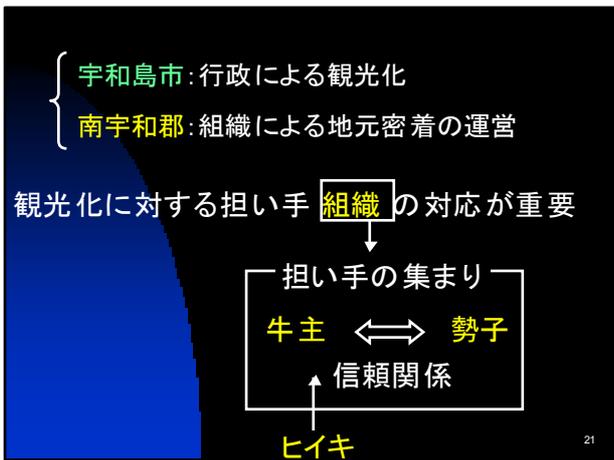
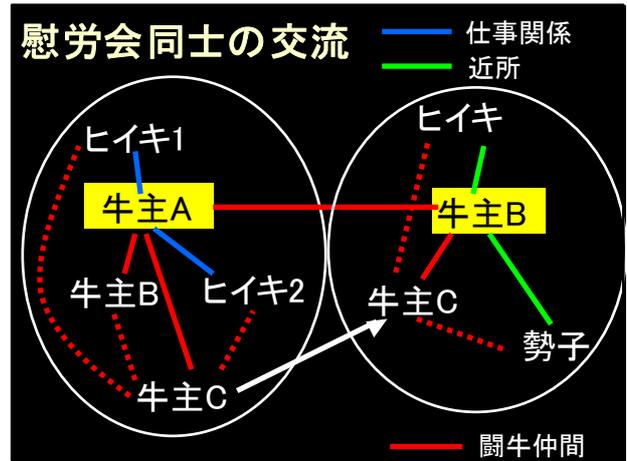
牛を訓練する  
戦況を見守



牛主

勢子

18



## 牛を媒介とした関係: 牛主の活動

45世帯で飼育(副業で畜産は3世帯)  
職業: 建設業, 公務員, 漁業など

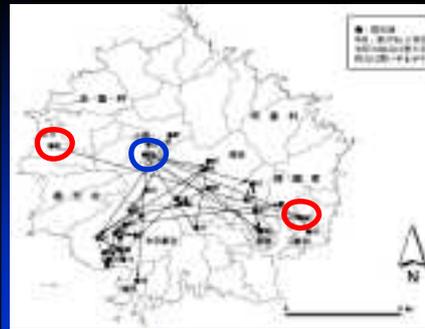
世話, 練習などで2~3時間

自分の牛の個性  
(体型, 性格, 闘い方)  
に対する思い入れ



父子で牛の散歩 <sup>25</sup>

## 牛の売買

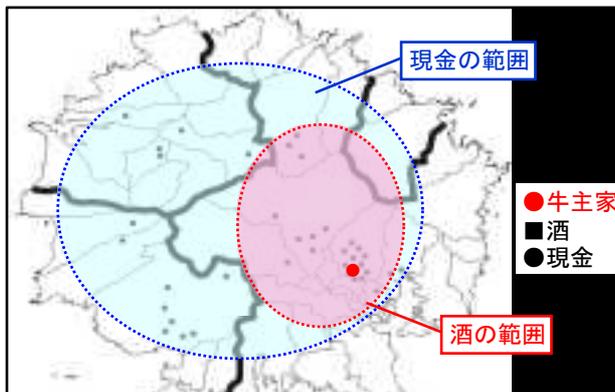


牛の評価 = 牛主の評価

付き合いのきっかけ



牛をよりどころに関係ができる <sup>26</sup>



闘牛を出した家に祝儀を贈った家 <sup>27</sup>

## 近隣の住民との関係

祝儀へのお返し...宴会, 大会での昼食提供  
勝敗の予想, 作戦会議...親睦深まる, 顔広まる

女性のサポートが不可欠!

連続で出場は困難  
40頭中20頭が名前変更  
(2003年)



## 【牛の貸し借り制度】

誰でも借りられる

牛の世話が  
できなくても可能

祝儀&宴会は全て  
借りた人(団体)が担当

牛主←救済措置



「若虎会」祝儀の件数 <sup>29</sup>

## グループで出場させる

複数の牛主+支援者  
飼育の情報交換, 継続的な関係



職業  
居住地  
年齢 } さまざま

牛の飼い方  
→ 価値観を共通 <sup>30</sup>

## 闘牛を介した結びつきの特色

牛を媒介・・・牛主を結びつける  
関係は、隠岐の広域に及ぶ

闘牛大会を媒介・・・牛主、住民、家族の関係強化  
地縁との結びつきが強い

従来からある血縁や地縁と共存しながら  
独特の価値観で人々を結びつける

31

## 事例3 徳之島

- ・人口:28090人(2000年)
- ・主な産業:サトウキビ
- ・闘牛の数:約500頭



0 4km

32

## 観光と行政

沖縄の牛主 観光客

観客:2000~5000人

- × 観光資源
- × 行政の支援



33

## 闘牛大会の運営

主催者(団体)が入場料を取って行う



観客が入る限り興行として成功

34

## 子供と闘牛:学校

島内での論争:「闘牛を認めるか？」

肯定派

「励みになる」



闘牛をクラブへ

否定派

「闘牛より勉強を！」

校則で禁止

- ・牛主・勢子
- ・ハッピを着る

35

## 牛主の生活



↑ 仕事と両立(1日4時間)

子供が世話を手伝う→

家族・近所とのつながり



人用の部屋



36

### 家族，地域の中での引き継ぎ

家の闘牛 → 兄妹  
幼少時から世話 → 近所の牛舎に通う

同級生

若者「闘牛があるから島にいる」  
→ 現実感のある夢

37

### 闘牛大会での応援

奥さんたち → 子どもたち

親戚・集落の人 祝儀  
⇕  
入場券

38

### 担い手にとっての闘牛の意義

勝つ：牛を育てる技術で争う  
「お金では買えない満足感」

喜びを共有  
島内(家族，集落)  
+ 島外(移住者，牛主)の絆  
島 ⇄ 闘牛

39

### 島外との関係

(1) 本土への移住者  
「闘牛は心の支え」

神戸  
・ 徳之島出身：3万人  
・ 1990年代：闘牛大会の開催

島とのつながり，アイデンティティ

40

### (2) 牛の移動 → 人のつながり

沖縄 本島 石垣島 → 伊仙町 徳之島町 → 徳之島

① ② ③ ④

闘牛F  
闘牛M

41

### 各地域の交流(闘牛の売買)

— 江戸時代 —  
— 1970 —  
— 1980 —

1998年～  
闘牛サミット & 全国大会

中越地方 岩手県 旧山形村  
新潟県  
島根県 徳島県 宇和島地方 八丈島  
徳島県 徳之島  
沖縄県 本島, 石垣島, 与那国島

42

## 結論

### 1. 観光化, 文化財化と行事の存続

- ① 宇和島地方: 観光化 → 組織, 対立, 団結
- ② 隠岐: 文化財化 → 神事, 行政の支援
- ③ 徳之島: 支援から自立 → 事業 ⇄ 観客の質

43

## 観光化, 文化財化と担い手

- 1. 担い手による経済的利益を生み出す仕組みの有無
- 2. 担い手が経済的利益なしで続けることに意義を見出すか?



44

## 2. 担い手の社会関係と存続

- ① 牛主と勢子  
... 闘牛のために最低限必要な関係

日常生活における交流 → 信頼関係



45

## ② 牛主と牛主

ウシを飼育する上での関係



同じウシ(生き物)への思い入れを共有  
↓  
物理的な距離を越えたつながり

46

## ③ 牛主の家族, 近隣居住者

大会を維持するために必要な関係

宴会での応援... 近隣居住者, 女性の参加  
→ 大会を通して, 家族や地域の絆が強まる

【各地で負担回避の制度】  
合同宴会, ウシの貸し借り, 同好会, 組合

47

## 闘牛を介した関係

- ウシを介した関係  
牛主と牛主, 牛主と勢子が新たに結び付く
- 大会を介した関係  
牛主と家族, 近隣居住者が絆を強める

# 牛縁

48

### 3.後継者への闘牛の継承

共通:家族, 地域の影響

徳之島

・牛舎・・・牛主+家族, 友人, 近所の子供  
→若者が成長する場所

担い手でない人物

→ウシや大会と関わりを持つ機会が多い

49

### 伝統行事の存続

1. 観光化, 文化財化  
→活性化の手段+担い手の活動が重要
2. 担い手同士の関係  
担い手+サポート役割が重要
3. 後継者の育成  
担い手以外の人が共有できるような場所

50

### 伝統行事における闘牛の特徴

担い手になるまでのハードルの高さ



いったん担い手になると・・・

行事の核: 生きているウシ「重い」存在  
牛縁・・・制約があるからこそ,  
人々を結び付ける

51

### 今後の課題

- 全ての地域について闘牛の差異を検討  
日本人にとって, 闘牛とは, 牛とは何か?
- 過去の開催地の現在の役割
- 海外との比較  
日本における存続の仕組みをより明確に  
動物観, 自然観の比較

52

ありがとう  
ございました

